平成27年度
第7号

耕　人

『耕人塾』
塾長木村民男
平成27年11月14日(土)

森信三先生の「修身教授録」から学ぶ

私が尊敬する一人に森信三先生という方がいます。森先生は、明治 29 年に愛知県知多郡武豊町に男 3 人兄弟の末っ子として生まれましたが、2 歳の時に母は生家を去り、3 歳の時に小作農の森家に養子として出されるという不遇な幼少期を過ごしています。

13 歳の時に頼山陽（らいさんよう：江戸時代後期の思想家）の「立志の詩」を学んで将来教師になりたいとの志望を抱きましたが、家族の反対で中学受験（現在の高校）を断念し、16 歳で母校の給仕として働きます。17 歳で代用教員として働きながら名古屋第一師範学校に入学しました。21 歳の時に小学校の先生になりましたが、23 歳で広島師範学校に入り直し、生涯の師である西晋一郎先生に出会います。卒業後、高等女学校の英語の教師として勤めますが、28 歳で京都大学哲学科に入学し、西田幾多郎先生（にしだきたろう：哲学者）の講義に接します。

38 歳のときに天王寺師範学校で教えた修身科の講義が『修身教授録』となり、現在でも多くの人に読まれています。その『修身教授録』に書かれている言葉のいくつかを紹介します。

① しつけの三原則は、「ハイの返事」「あいさつ」「はきものをそろえる」です。これだけをやれば他のしつけはできるようになります。

② わが身に降りかかる事柄は、全てこれを天の命として慎んでお受けするということが、われわれにとっては最善の人生態度であり、真の人間生活はここから出発するのです。

③ 真に志を立てるということは、二度とない人生をいかに生きるかという、生涯の根本方向を洞察する見識と、それを実現する上に生ずる一切の困難に打ち克つ大決心を打ち立てる覚悟がなくてはならないのです。

④ 人間は、この世の中を愉快にすごそうと思うなら、なるべく人に喜ばれるように、さらには人を喜ばすように努力することです。つまり自分の欲を多少切り縮めて、少しでも人のためになるように努力することです。

⑤ 人間は、自分一人の満足を求めるチッポケな欲を徹底的にかなぐり捨てる時、かつて見られなかった新たな希望が生まれ出るものです。　〔※一部文言を意訳〕

森信三先生は、戦前・戦後の日本の教育界に大きな影響を与えた教育者です。膨大な著書もありますが、常に実践を重んじ、定年後は 1 年の半数以上は講演行脚をして実践教育の重要性を説かれました。一つ一つの言葉に魂がこもっています。私たちも実践したいですね。

「被災地でがんばっている人を支援したい」丸山三枝子さんの思い

神奈川県川崎市に住む丸山三枝子さんという方から、『耕人塾』に多額の協賛金をいただきました。『耕人塾』協力者の千葉和彦先生を通じて、『耕人塾』の趣旨である「人間力を磨き地域社会に貢献する人材育成」の趣旨に賛同していただき、ご寄付をしてくださいました。丸山さんは長年ビル掃除の仕事をしながら、こつこつ貯めてきたお金を自分のためではなく、被災地復興のために使ってほしいとの強い思いがあったそうです。72 歳になる現在もビル掃除を続けながら、被災地のことを考えてくれています。

『耕人塾』を選んでいただいたことに感謝するとともに、丸山さんの願いを実現できるよう「世界に誇れる石巻地域」にしていかなければならないと決意を新たにしています。